

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（南伊勢高校 南勢校舎）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自立に向け、基本的生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい 教職員像	○共通認識のもと、生徒に寄り添い、生徒の個性を最大限伸ばさせる教職員 ○小規模校・校舎制の利点を活かす新しい発想を創造し、活力ある教育活動を展開する教職員 ○地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを行う教職員 ○総勤務時間縮減を意識し、ワークライフバランスを大切にする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒・保護者>基礎学力の定着。規律ある充実した学校生活。希望進路の実現。 <地域社会>将来的に、地元地域で生活し、地域社会に貢献できる人材の育成。 <中学校>学習面、生活面での中学校からの指導の継続。将来自立できるための力の育成。取組内容の中学生及びその保護者への浸透。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<保護者> 学力向上。確かな進路保障。 学校との信頼関係。 <町・町教育委員会> 地元地域の活性化を担う人材育成。 生徒の進路保障。 <地元企業等> 将来的に、地元地域に勤め、地域社会を支えてくれる人材の育成。 <NPO等地域活動団体> S B Pを中心とした生徒による地域活性化への貢献。	<保護者> 学校と連携した家庭での生活指導・学習活動への協力。 <町・町教育委員会> 学校運営協議会等を円滑に進めるための協力。地元への就職支援。 <地元企業等> インターンシップ等教育活動への協力。地元企業の採用増加。 <NPO等地域活動団体> S B Pを中心として、生徒が活躍できる多様な機会の提供。
(3) 前年度の学校運営協議会委員評価等		・基礎学力向上をはじめ、小規模ならではのきめ細かな教育の継続、スケールメリットを生み出せるよう度会校舎や地域の学校と学びあえる環境づくり、ICTの積極的な活用など、現状に即した教育を推進する必要がある。 ・挨拶をはじめ、基本的生活習慣の確立に向け、粘り強く指導していく必要がある。 ・中学生やその保護者、地域の方々に向け、学校の特色などが明確に伝わり、ニーズや理解度のリサーチも含め、「響く広報」を目指す必要がある。	
(4) 現状と課題	教育活動	多様な生徒が在籍するなかで、基礎基本の定着を大切にした教育の実践と生徒一人ひとりへのきめ細かな指導により、地域から一定の評価を得ている。また、地域からの支援を得て「地域創生」の教育内容を充実させている。 今後、少人数教育を行う中で、生徒のより幅広い教科・科目の受講や学校の枠を越えた交流等、さまざまな教育機会の充実につながるよう、ICTを用いた遠隔授業等の取組を進める必要がある。	
	学校運営等	地域に密着した県立高校として、地域への貢献も視野に入れ、近隣の小中学校と連携した取組や、多様な年齢・立場の人々と係わる取組を行い、地域から一定の評価を得ている。今後さらに、学校の取組を地域の中学生やその保護者に浸透させ、入学者を確保していく必要がある。 また、度会校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく必要がある。併せて、両校舎の教職員数の減少を受け、様々な校内組織の見直しを行う必要がある。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	・ 自他の命を尊重し、社会的自立に向けて基礎基本の学力と差別をなくす実践力を身につけさせるとともに、高い自己肯定感を持ち、自ら考え適切に行動できる生徒を育成する。 ・ 個々の能力・適性に応じて、自らの将来を主体的に考え、希望進路の実現に向けて積極的に取り組む生徒を育成する。 ・ 基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀をしっかりと身につけ、心身ともに健康な生徒を育成する。 ・ 二校舎を取り巻く自然環境や文化を活かした教育活動を行うとともに、合同の部活動等を通じて生徒の交流を促進する。
学校運営等	・ 地域の多様な主体と連携・協働し、地域からより信頼され、選ばれる学校づくりを推進する。 ・ 度会校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく。 ・ 業務改善を積極的に行い、勤務時間の縮減に努めることにより、より質の高い教育を目指すとともに、ワークライフバランスに配慮しながら教員の一層の資質向上に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導等の充実	(1) 基礎学力の定着を図り、基本的な学習習慣を確立させる。 【活動指標】 ・ 全教員が「メリハリのある授業」づくりに取り組む。 ・ 基礎学力ウィーク等の取組と合わせて、基礎力診断テストを年3回(1・2年生)実施する。 【成果指標】 ・ 学校生活アンケートにおいて80%以上の生徒が授業(授業内容の理解、授業への参加、質問できる雰囲気)に満足している。 ・ 基礎力診断テストにおいて50%以上の生徒の成績が上昇する。 (2) 基本的な生活習慣や社会的規律の定着を図る。 【活動指標】 登下校や授業等の日常生活場面で、挨拶の励行を指導する。 【成果指標】 過半数の生徒が、自分から挨拶できるようになる。	(1) 基礎学力ウィークの設定において、新聞コラムの書き写しと問題演習を、各学期に1週間ずつ行った。1限目の授業に落ち着いて取り組む姿が見られた。 ・ 授業への満足度は、83.3%[11月]、81.0%[2月]と昨年度より向上し、目標を達成した。 ・ 基礎力診断テストの成績において、前回より学習力ランクが上がった生徒は、3年生14名中7名であった。 (2) 登校時の声かけ等によって、挨拶をする生徒が増加。自ら元気に挨拶をする姿も見られるようになった。	◎
遠隔授業等の推進	(1) 度会校舎との間で、少人数の講座においても多様な意見や考えに触れたり、協働して学習したりすることを目指して、ICTを用いた遠隔授業等に取り組む。 【活動指標】 両校舎間で遠隔授業を実施するとともに、生徒会等の遠隔交流を実施する。 【成果指標】 将来の生徒の多様な科目履修の保障につながる。	(1) ・ ALTによる度会校舎との遠隔授業を実施。 「英語コミュニケーションⅠ(2年生)」[2/3]	
キャリア教育の充実	(1) 授業や学校行事を通じて地域との繋がりを推進し、地域に貢献できるリーダーの育成を目指す。 【活動指標】 ・ 学校設定教科「地域創生」の学校設定科目「地域探究」及び「地域課題研究」において、外部講師による講演またはフィールドワークを年5回以上実施する。また、学校設定科目「インターンシップ」において、就労体験を年15回以上実施する。 ・ 防災教育として、外部講師による講演またはフィールドワークを年5回以上実施する。 ・ ボランティア活動として、清掃活動等を実施する。 【成果指標】 生徒が地域の魅力を再発見するとともに、課題を見つけ、解決方法を模索できるようになる。	(1) ・ 外部講師による講演またはフィールドワーク:11回 「地域探究」:7回 「地域課題研究」:4回 ※地域課題研究の成果を南伊勢町に発表。[町役場南勢庁舎1/23] 「インターンシップ」:16回 ※農業(通年1名)、町役場関連・保育(通年1名) ・ 総合的な探究の時間「輝ひ(1年生)」の防災特別講義とフィールドワーク:8回 ※校外防災研修は、名古屋市港防災センターを訪問。[1/24] (1・2年生)	※

	(2) 社会人として必要な態度・マナーを習得させ、将来にわたり社会への貢献を考えさせる。 【活動指標】進路ガイダンスや講演会を3回以上実施する。 【成果指標】就職内定、公務員試験合格、進学志望校合格100% (3) 自らの適性を理解し、自己肯定感を持つとともに、生きることの尊さや生命のかけがえなさを理解し、自他の生命を尊重する姿勢を育てる。 【活動指標】人権LHRの開催と、外部講師による講演会を1回以上実施する。 【成果指標】生徒の人権意識が向上する。(アンケートをもとに80%以上)	・「クリーンアップ大作戦」として 南勢野添バス停・通学路のカーブミラー・学校周辺の清掃活動実施。[6/1] (2) ・進路ガイダンス 2回[6/15・12/19]、着こなしセミナー[1/19]、高校生と地元企業との交流会[2/22]を実施。 ・就職実現コーディネーターによる、効果的なキャリア教育支援および就職支援等により、進学・就職ともに、3年生全員の希望進路の実現を達成。 (3) ・各学年2回の人権LHRを実施。 ・度会校舎と合同で、外部講師による人権講演会を実施。[12/21]「多文化共生と将来の夢」(太田カルロスさん) ・地区別人権学習[8/9]、みえ県議会出前講座[9/7]、人権まなびの発表会[10/22]において生徒発表をおこなった。 ・1年生は防災学習、2・3年生は平和学習を実施。	
--	--	--	--

改善課題

- ・基礎学力の不足している生徒が多く、引き続き取り組みを充実させたい。
- ・基本的生活習慣の改善のため、強化週間(挨拶運動等)の取り組みを充実させる。
- ・ICT活用の推進とともに、より一層、度会校舎との遠隔授業や交流を深める。
- ・人権意識のさらなる向上と実践力を養う。

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1) 教職員一人ひとりのコンプライアンス意識をより一層向上させる。 【活動指標】学校信頼向上委員会を積極的に活用し、不祥事根絶に向けての教職員研修を年3回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりに、コンプライアンスに主体的に取り組む姿勢が育成される。 (2) 教職員一人ひとりの人権意識をさらに向上させる。 【活動指標】人権講演会または研修会を年1回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりにより、より充実した人権教育が実践される。 (3) 教職員一人ひとりが、特別支援教育の観点から、生徒の実態に即した対応が出来るようにする。 【活動指標】特別支援教育研修会を年1回実施する。 【成果指標】教職員同士で多様な生徒の実態が共有され、生徒の困り感に対して柔軟な支援がなされる。	(1) 定期的な「学校信頼向上委員会」の開催、各学期に1回、「コンプライアンス研修」を実施した。 (2)(3) 発達障がい支援員やスクールカウンセラーをアドバイザーに招き、多様な生徒に対する生活指導・学力保障支援についての教員研修会を実施。[7/20] 担任と保護者、教科担当や各分掌との綿密な連携により、生徒一人ひとりに寄り添った対応が出来た。 また、職員会議や朝の打合せ、授業間等で、常に情報が共有されていた。	◎

情報提供による信頼の構築	(1) 学校の教育活動や生徒の取組等について、報道機関等へ積極的に情報を発信する。 【活動指標】 ・行事等の取組を年5回以上、報道機関へ情報提供する。 ・ホームページによる情報提供を適宜行う。 ・授業公開、学校見学会等を年2回実施する。 ・町の広報誌への情報掲載を毎月依頼する。 ・コミュニティ通信の町内全小・中学生配付と、町内 38 自治会配付・回覧を年3回以上依頼する。 【成果指標】 ・地域の広範囲に学校の取組が伝わる。 ・ホームページが最新の情報を得るツールとして定着する。 ・中学生やその保護者、地域の方等に学校の様子が豊富に正確に伝わる。	(1) ・新聞による報道2回、ケーブルテレビ等による報道12回。 ・ホームページコンテンツ「南高 diary」の更新頻度を向上。(年間60回更新) ・公開授業(1回)、高校生活入門講座(1回)を実施。 ・町広報誌への情報掲載を毎月実施。 ・コミュニティ通信「南勢校舎だより」を、年3回発行。 ・町内中学校の進路説明会にて、学校の様子や卒業生の声等を発表。	
働きやすい職場環境づくり	(1) 総勤務時間の縮減に努める。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100% ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 100% 【成果指標】 ・1人当たりの月平均時間外労働時間 7 時間/月 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0 人 ・年 360 時間を超える時間外労働者の人数 0 人 ・1人当たりの年間休暇取得日数 23 日/年	(1) ・定時退校日の定時に退校できた教職員の割合 88.1% ・計画的に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し、60 分以内に終了した会議の割合 100% ・1人当たりの月平均時間外労働時間 14.2 時間/月 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 5 人 ・年 360 時間を超える時間外労働者の人数 1 人 ・1人当たりの年間休暇取得日数 22.6 日/年	※
改善課題			
・生徒それぞれの多様なニーズを考慮し、引き続き継続的な対応に心がける。 ・公開授業や学校見学会等の充実、広報活動の推進により、学校理解や魅力発信をさらに進める。 ・総勤務時間の縮減を図り、引き続き業務の改善・精選等に努める。			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・基礎学力向上をはじめ、小規模校ならではのきめ細かな教育の継続、度会校舎や地域の学校等、他校と連携して学びあえる環境づくり、ICTの積極的な活用など、現状に即した教育を推進する必要がある。また、挨拶をはじめとする基本的生活習慣の確立等に向け、引き続き粘り強く指導していく必要がある。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・ICTの活用や交流事業などにより、魅力ある授業づくりに努め、生徒一人ひとりの学びの充実を図るとともに、授業規律の確保や社会的規律の定着、対話的・協同的な学びの推進に努める。また、度会校舎や地域の学校等、他校と連携して学びあえる環境づくりを推進する。 ・南伊勢町とタイアップしながら学校設定教科「地域創生」等の授業内容を充実させ、地域の探究をさらに深め、学校と地域の魅力を発見・発信し、グローバル人材の育成に努める。
学校運営についての改善策	・南伊勢町や関係機関等との連携・協働を、教育活動や様々な取組み等に反映し、生徒が自ら考え、活動ができる力を養えるよう、より良いマネジメントをしていく。 ・生徒や卒業生が発表する機会の設定や、報道機関や町の広報誌・学校HPなどへのニュースリリース等、情報発信を充実させる。 ・教職員の資質向上のため、コンプライアンス研修等、時代のニーズに即した研修を充実させる。また、業務の改善や精選、総勤務時間縮減などにより、働きやすい環境づくりに努めていく。